

令和 7 年度 世田谷区立芦花小学校 自己評価報告書

1 本年度の重点目標

○芦花小学校の教育目標は次の四つである。

芦花小学校 教育目標

- 健康で明るい子ども
- すじみちをたてて考える子ども
- すすんで行動し、最後までやりぬく子ども
- すなおで心の豊かな子ども

○上記目標を達成することで、世田谷区の教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」の四つの基本方針の実現をめざしてきた。

四つの基本方針

- 新しい知を創造する
- 地球の一員として行動する
- 多様性を受け入れ自分らしく生きる
- 共に学び成長し続ける

○本年度、芦花小学校では以下の 5 点を重点目標として掲げて、よりよい児童を育成することに力を入れた。

○子どものための学校

- ・将来の社会を担う知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する。
- ・一人一人が自ら課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる児童を育成する。

○教員が「プロ」として互いに高め合う学校

- ・「子どもたちのために」の視点を忘れない教員集団として組織的に児童を指導していく。

○地域・保護者と協力して連携する学校

- ・地域や保護者との情報の共有と学校・家庭の役割分担を明確にし、協働と連携を通して、「社会に開かれた教育課程」の実現を図っていく。

○『キャリア・未来デザイン教育』の推進

- ・「せたがや探究的な学び」を推進するとともに、自己実現するための「キャリア教育」を進める。

○『危機の予測・回避・管理』意識を高める

- ・迅速な初期対応と組織的対応で、児童一人一人が安心して安全な学校生活を送れるようにしていく。

○学校における『働き方改革』の推進

- ・児童が楽しく学校生活を送るためには、教師が心身ともに健康であることが不可欠である。
- ・時間的な工夫をすることでゆとりをもって児童と向き合う時間を確保することが重要である。

2 重点目標の評価

※（ ）内の数値は令和6年度のもの

本校では重点目標に沿った取組が、全教職員により計画的に進められている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
52.0% (28.0)	48.0% (72.0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

3 子どものための学校

本校では、「子どものための学校」のために、知・徳・体のバランスがとれ、それぞれが思い描く未来を実現できる児童の育成に取り組んでいる。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
54.0% (18.0)	46.0% (80.0)	0% (2.0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

○縦割り班活動「芦花っ子タイム」の実施

縦割り班活動「芦花っ子タイム」は、異学年交流の場を設定することによって、上級生は下級生を思いやる心を、下級生は上級生にあこがれる心を育み、互いに協力してより豊かな学校生活を送ることを目的としている。児童同士の関係を深められるよう月1回程度実施している。また、自主的・実践的な態度を伸ばすために、学期に1回ずつロングの時間を設定し、児童が相談しながら活動を修正して取り組めるようにしている。

○代表委員会「芦花ラス会議」の開催

学級の代表や委員会の委員長で構成する「芦花ラス会議」を開催し、より楽しく豊かな学校生活を自分たちで作ろうと取り組んでいる。芦花小学校の合言葉を作り、それに向かって活動したり、運動会や音楽会などの行事を盛り上げたり、よりよい芦花小学校にしようとして取り組んでいる。

○補充教室（寺子屋クラブ）の定着

第2・3学年を対象にした補充の教室「寺子屋クラブ」では、前期・後期の2期で実施している。1学期に指導した学級児童の中から、寺子屋での補充が望ましい児童を吟味して、後期に参加させることで、より多くの児童に適切な補充をすることができた。

また、講師及び学習ボランティアが充実しており、個別に指導する機会を増やすことができたことが、児童の基礎、基本の定着につながっている。

○体力向上の取組

体力テストの結果から、芦花小の児童の体力を全国平均と比べると、「筋力」は高い傾向にあるが、「走力」「投てき能力」はやや低い傾向にある。体力向上部を中心に、なわとび月間や持久走月間などの取組を行ってきた。検定カードの活用や休み時間の運動を促すことによって、意欲的に取り組めるような工夫をしている。

4 教員が「プロ」として互いに高め合う学校

本校では、「教員がプロとして互いに高め合う学校」のために、教員集団として組織的に児童を指導している。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
48.0%(28.0)	52.0%(70.0)	0%(2.0)	0%(0)	0%(0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

○校内研究

研究教科：国語科

研究主題：主体的な読み手の育成～説明的な文章の学習を通して～

本校では、昨年度までの3年間で、特別活動（1）についての授業研究を行ってきた。児童自らが議題を挙げ、話し合いをし、合意形成をしていくことを積み重ねてきた。今年度はこれまで蓄積してきた学級活動（1）における研究の成果を教科学習に生かしていくことになり、本校教職員に対してアンケートを集めたところ、国語科が最も学級活動（1）で培った「話し合う力」を生かしやすいという声が挙がった。

国語科でも本校児童の課題である読むこと（説明的な文章）に焦点を当て、研究主題を「主体的な読み手の育成」とし、副主題を「説明的な文章の学習を通して」として、年7回の研究授業を行ってきた。

主体的な読み手を育成していくために、以下の3点を研究の視点として研究を進めてきた。

- ① 読む必然性と意欲をもたせる工夫
- ② 判断から学びを活性化する発問の工夫
- ③ 自己の読みを促す学習環境の工夫

成果

- ・漫然的にいきなり読みに入るのではなく、読むことへの意欲を高めることで、単元を通じて問題意識を高く保ちながら読むことができていた。
- ・whichi型の発問を意図的に投げかけることで、読むことに対して苦手意識をもつ児童でも自分の立場をはっきりさせることができていた。

課題

- ・視点③の学習環境の工夫が、言語活動を入れることにのみ傾倒してしまっていた。
- ・言語活動も「何のために」取り入れるのか根拠を明確にするとよかった。
- ・教師のねらいを意識しすぎてしまうがゆえに、主発問へ至るまでの流れが複雑になってしまっていた。よりシンプルにねらいに迫れることが求められる。

1月中旬に、今年度の成果や課題をまとめ、2月に次年度に向けて研究の方向性を決める。各学級及び校内での国語教育をさらに充実させ、主体的な読み手の育成を図っていく。

5 地域・保護者と協力して連携する学校

本校では、「地域・保護者と協力して連携する学校」のために、地域や保護者との情報の共有を行い、協働・連携している。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
50.0% (30.0)	50.0% (70.0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

○年間通したあいさつ運動の実施

「あいさつキャンペーン」週間を実施し、保護者・地域の方々の支援を得て挨拶に取り組んでいる。毎学期、「あいさつカード」を活用し、児童が自分自身の挨拶について振り返られるようにした。また、6年生が挨拶をする側として、挨拶あふれる学校づくりの先頭に立って活動している。

本校では、学校運営委員会が十分機能している。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
54.0% (42.0)	46.0% (58.0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

本校では、学校運営委員会の活動について十分な情報が提供されている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	分からない
46.0% (30.0)	52.0% (68.0)	0% (2.0)	2.0% (0)	0% (0)

本項目において、9割を超える教員が肯定的に答えている。

○地域運営学校

今年度、芦花小学校で行っている教育活動のうち、地域の人材や施設を活用したものを下記の表にまとめた。本校は地域運営学校であり、地域支援本部を設置している。地域より4名、教員から3名がコーディネーターとして任務にあっている。今年度も、年度当初にコーディネーターと各学年の打ち合わせの機会を設けた。各学年で行われている地域との連携教育について、活動内容を整理して人材活用が行われた。

○学校運営委員会

学校運営委員会での協議の過程は、管理職から職員会議で情報提供されている。そのため、教職員の中で学校運営委員会がより身近になっている。それとともに、学校運営委員会の事業である「寺子屋クラブ」「漢検」「あいさつ運動」「サマーワークショップ」に教員が関わり、PTA・地域の方と連携して児童の育成に向けてつながりを深めてきた。

芦花小学校における地域人材・施設活用活動

1 学年	公園探検 秋探し 交通安全教室 昔遊び交流会 保幼小交流
2 学年	町たんけん ミニトマト栽培 花の丘活動 寺子屋クラブ
3 学年	地域安全マップ作り 寺子屋クラブ
4 学年	水道/下水道キャラバン 世田谷文学館ワークショップ 伝統工芸オンライン授業
5 学年	米作り 音楽鑑賞教室 弁護士によるいじめ防止の講話 伝え方教室
6 学年	租税教室 薬物乱用防止教室 リアル職業調べ 古典芸能鑑賞教室 ネットリテラシー講座 走り方教室
全学年	あいさつキャンペーン

6 「キャリア・未来デザイン教育」の推進

本校児童の実態に即した生活時程になっている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
64.0% (30.0)	36.0% (68.0)	0% (2.0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に答えている。

○教育課程

教員研修がある場合のみ、特別時程を設定している。第4学年以上は国語でモジュール学習が実施している。第3学年以下は、前述のように、「朝学（基礎基本の時間）」「読書」を行っている。また、週に1回程度、「学級の時間」を設定し、学級会の準備や係活動などの時間とし、特別活動の充実を図っている。

私は視聴覚教材・情報機器を活用している。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
44.0% (30.0)	50.0% (68.0)	4.0% (2.0)	2.0% (0)	0% (0)

本項目において、9割を超える教員が肯定的に答えている。

○学習指導

GIGAスクール構想の一環で、全児童にタブレット端末が導入されてから5年が経過した。それぞれの児童がタブレット端末の機能を十分に活用できるようにするために、6年間を通して情報端末の活用スキルを計画的に身に付けさせる年間計画を作成している。また、ロイロノートやTeams、Qubenaなどを児童が使いこなせるよう、ICT担当教員が講師となり、教員対象の研修会を適宜設定してきた。そのため、日常的に授業でICTを活用している様子が通常ようになってきた。

一方で、インターネットの不適切な使い方や家庭での長時間使用などの課題もある。情報教育部が中心となって、課題に対して対応している。

本校では生活指導上の課題に、共通理解のもと組織的に取り組んでいる。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
56.0% (32.0)	44.0% (66.0)	0% (2.0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に答えている。

私は児童の規範意識や社会の一員としての自覚が高まる指導をしている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	わからない
58.0% (34.0)	42.0% (66.0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

○生活指導

「毎週実施する生活指導夕会で児童の情報を共有し児童理解を深め、いじめや不登校の未然防止や早期対応をする」「チャイムなしの学校生活の中で時間を守って行動させる」など、共通理解のもと組織的に取り組んでいる。しかし、教職員の目が届く範囲ではルールを守ることができていても、地域や家庭での生活態度に差があると思われる。また、教室で担任だけでは対応が難しく、学年や学校全体で対応を図っている事例もある。来年度以降も、組織的に自己肯定感を育てる取り組みを進めることで改善を図っていききたい。他者と触れ合い、お互いに認め合う活動を充実させて、自己理解、他者理解を深めることや、道徳教育や安全教育を通して、高い規範意識を定着させる指導を重点的に展開していく。

○学校行事

今年度は、展覧会を実施した。児童にとって学校行事が重要な成長の機会であるが、授業時数の増加及び児童数増加の中で、実施することには困難さが生じている。そのような中で、児童の実態や社会情勢を鑑みながら、教職員は目的を達成するために創意工夫をし、学校行事で得られる満足感を大切にしてきた。

○キャリア教育

児童が自らの学習状況やキャリア形成を見返したり振り返ったりするための「キャリア・パスポート」を活用し、自己の成長を感じられるようにしている。また、特別活動を中心に自身の役割を果たす活動を通して、人の役に立つ経験を豊富にしながら自己有用感を育てている。そして、『キャリア・未来デザイン教育』を、学級活動（3）を中心に推進し、自己を見つめ、将来に希望をもって生きる児童を育てていく。

本校では学び舎の中学校との交流が活発である。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	分からない
44.0% (38.0)	50.0% (58.0)	6.0% (4.0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、9割を超える教員が肯定的に答えている。

○学び舎による学校運営

小・中一体型校舎の機能を生かした新たな交流のあり方を様々な面で検討・実施してきた。主な交流は以下のとおりである。

小中合同朝会[4・9月]、小中合同集会[5・10月]、小中合同音楽会[3月]
中学校学芸発表会展示の鑑賞[1月]
かけ算九九検定（2年）、芦花中訪問（6年）

区内唯一の校舎だからこそできる教育活動に取り組み、教育的な成果を挙げていきたい。

7 危機の予測・回避・管理

本校では避難訓練や犯罪被害等防止の取組を計画的に行っている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	分からない
64.0% (44.0)	34.0% (56.0)	2.0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、9割を超える教員が肯定的に回答している。

私は安全についての報告・連絡を迅速かつ確実に行っている。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	分からない
62.0% (38.0)	38.0% (62.0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

本項目において、全ての教員が肯定的に回答している。

○学校の安全性

最近では、教育機関における児童の安全性が大きく話題となっている。本校では今年度、大きな事故がなく、日々の学校生活を送ることができた。校舎内の安全が保たれていることに加え、主事業務委託・株式会社ソシオによる清掃・整備が行き届いている。また、安全指導日に行われている芦花小独自の「ヒヤリハット」の活動も児童の安全意識向上に寄与している。

本校では、芦花中学校と合同で避難訓練を実施している。中学生が身を以て示している安全に対する高い意識が、小学生のよき手本となっていることも、芦花小が安全を維持していける要因と考えられる。